高退協ニュース 200号記念

ニュース編集者の思い出から

ニュース編集の思い出

土居 正明

原稿依頼を受け、とりあえず当時の高退協ニュースを探し出して読んでいると、170号に自分の「退任のあいさつ」を見つけ出した。次のように書いていた。

―（前略）毎月の事務局会の他に、隔月に高退協ニュースの編集委員会がありましたが、これだけは四年間一度も欠かさず出席しました。いつもミスが多かったことはおわびいたします。気が置けない仲間たちとわいわい言いながらニュース編集をしたのが、楽しい思い出です。（後略）―

ニュース編集の思い出はまさにこれに尽きるな、と思ったことだった。

「ミスが多かった」ということで思い出すことは、俳句や川柳の原稿が届いたら、家に持ち帰って、パソコンに打ち込んだのだが、俳句や川柳は、たった十七文字の短い言葉で、色んな思いを伝える表現であるから、一文字でもよく注意すべきなのに、よく間違えて次の号で「お詫びと訂正」を載せたものだった。何しろ俳句などの心得のない者が打ち込んだわけですので、どうかお許しを、と思ったことだった。

もう一つ思い出すことは、原稿の紙面割り振りをする時、ハサミで小さく切って次の段落に持っていくのだが、その数があまりに多かったりすると、つい順番を間違えて、文の繋がりが無くなるような事をしたこともあった。原稿をくれた人には申し訳ないことである。

「気が置けない仲間たち」とは、今でもよく投稿されている関ヤン（松山）、島ヤン（島本）、橋ゲン（橋元）らであった。「わいわい言いながら」やったから楽しかったのかも知れない。

新聞「高退協ニュース」編集部の思い出

松山　和雄

退職してすぐに高退協の事務局に入り、土居正明さんのもとでニュースの編集に関わりました。翌年には島本聡さんを誘いこみ、高教組書記局でにぎやかに楽しく仕事半分雑談半分の時間を過ごしました。さらに次の年には土居さんの後釜の「編集長」に大抜擢される羽目になりました。

いつもはお城の緑を窓に映す静かな書記局に、二か月に一度、騒がしい日が訪れます。まだ現・武田編集長のように『編集ソフト』など扱えない私たちは、書記局のテーブルの上でハサミとスティク糊とピンセットという『三種の神器』を自在に操り、まさにカミ技のごとき手際よさで原稿を切り貼りして行きます。B4の用紙の上に美しく割りつけられた原稿、あとは糊で貼りつけるだけ！

その時誰かが西の窓を開けました。一陣の風が「サー」と吹き込み、まるで桜の花が春風に散るように、苦労を重ねて割りつけた原稿が書記局の床にハラハラと散らばりました。それからはみな童心に帰って黙々とジグソーパズルをし、貼り付けのやりなおしです。

やっと原稿も出来上がり、印刷を書記の上村さんにお願いして帰宅しますが、その夜の再点検はさらに神経をすり減らします。なにしろ切り貼りですから、文章が飛んで別の人の文章が間に挿入されていたことも幾度かありました。短歌や俳句では点検でも見落としてしまいます。そんな時は、あくる朝早く家を出て書記局の前で上村さんを待って訂正のお願いをしたことでした。

ところで、皆さんは退職した後に現職のときの「夢」を見ることはありませんか？退職してもしばらく私は「試験問題ができてない！大変だ！」とか「学籍簿が仕上がらない！」・「定期試験の監督で答案用紙が一枚足りない！」などなどの「悪夢」を幾度も見ました。

ところが、「高退協ニュース」の編集をしていた時は結構なストレスを感じていたはずなのに、ニュースに関わる「悪夢」は幸いにも一度も見ていません。昨夜までは・・・

ニュース編集あれこれ

武田　豊

高退協ホームページにある1979年6月発行の№1から始まって、約2ヶ月に1回の割合で出して200号とは気の遠くなるような話です。このような企画に関わることが出来て幸いなことだと思います。高退協ニュース発行に関わって5年になりますが、当初は切り貼りで紙面を作成していました。

次がエクセルでの紙面作成、少し楽にはなりましたがレイアウトの不自由さは切り貼りと似たようなものでした。現在は編集長という紙面作りに特科したソフトを使っていますのでレイアウトは随分楽になりました。ニュース作成での苦労は、原稿集めにつきます。原稿が無ければニュースは出来ません。私一人の力では原稿集めにも限りがあります。編集委員や事務局のメンバーの多くの会員との繋がりでやっと紙面が埋まり何とか形ができています。

紙面作りでの苦労といえば、切り貼りでの位置合わせにつきます。投稿された原稿をコピーし台紙に貼り付けるのですが、予定通りに埋まるのは希。ほとんどがやり直しの連続なので1面作成するのに3時間くらいかかったものでした。でも失敗を笑い飛ばす雰囲気が編集委員会にあり苦しくも楽しく編集出来ました。ニュース編集に関わった仲間達は、松山、島本、橋元、小松、森下、別役、澤田、上村の方々でした。それぞれが独特な雰囲気と能力を持ちワイワイガヤガヤと編集しました。現在は、編集長ソフトを使っているのでレイアウトのやり直しは比較的簡単になりました。しかし、紙面の都合上で記事が入りきらない時はせっかく投稿してくれた原稿を断腸の思いで縮小せざるを得ず申し訳無い気持ちで一杯です。

失敗談としての悪夢は、機関誌「こうたいきょう」の原稿として送られたものを、ニュース原稿と勘違いし高退協ニュースに掲載してしまった事。原稿が足りない時には、手元にある物は何でも使ってしまうという習性がつい出てしまったものでした。投稿者には平謝りですが簡単には納得してもらえませんでした。この場を借りて再度「ごめんなさい」です。

高退協ニュース200号記念 会員の皆様からのメッセージ

1　林　鷹子

現場を離れると疎くなる情勢・文化・レクレーション。それを支えてくれたのが高退協、そしてニュース。どれだけ頼りになったか計り知れません。旅の案内、いろいろなクラブ活動、今や廻りの方々もまき込んでの「山の会」、二月に逝った夫が楽しみにしておりました。

2　中村　正博

「高退協ニュース200号達成」おめでとう！

身体が不自由になってからは、隔月に発行される「高退協ニュース」を楽しみにしています。最近の闘い・集会の状況、社会や教育の動き、それに対応する仲間の活躍を読んで、私も高退協の一員でよかったと確信して励まされています。さらに300号・400号を目指して団結頑張ろう！

3　＊＊＊＊＊

高退協万才！

「平和と真実を貫く民主教育確立」に頑張った仲間が次第々に少なくなり淋しい。遺志を受け継ぎ少しでも永く生きます。（3面に続く）